

中世の歴史叙述 Historiographies in the Medieval Age

キリスト教的歴史叙述 Christian Historiographies

=救済史 History of Salvation

歴史は有限 History has the limit.

天地創造 the Creation から最後の審判 Judgement まで=歴史の循環 cycle を否定

歴史の方向と目的 Direction and purpose of history

キリスト生誕と死の歴史的意味 Historic meaning of the Birth and the Death of Christ

歴史は神の摂理 divine providence をあらわす

歴史への神の関与

教訓 instruction : 殉教者伝 vitae of martyrs

因果応報 retribution

年代記 Annales :

修道院や教会、王朝の出来事を天変地異や戦争などと一緒に簡単な記録。

『ロルシュ大年代記』 *Annales Lourienses majores* など。

世界時代史 Chronica Mundi (World Chronicle) :

実用的、教訓的 instructive。人類史・世界史としての歴史。

アウグスティヌスの『神の国』やフライジングのオットー『二都論』など。

伝記 Vita (Biography) :

教育と娯楽のため。殉教者や聖人、皇帝や国王などを扱う。

スルピキウス・セウエルの『聖マルティヌス伝』やアインハルトの『カール大帝伝』など。

アウグスティヌス Augustinus of Hippo (354-430)

北アフリカのタガステ Thagaste に生まれる

父パトリキウス Patricius はマニ教徒で母モニカ Monica はキリスト教徒

17歳でカルタゴで修辞学 rhetoric を学ぶ。

女性と同棲。一子アデオダトゥス Adeodatus を設ける。

新プラトン主義 Neo Platonism の影響を受ける。

マニ教 Manichaeism に興味を持つ

384年、ミラノでアンブロシウスの指導を受ける

弁論術の教師の職を得る。

387年、洗礼を受ける。母の死。

北アフリカに戻る。

391年、司祭 priest

396年、ヒッポの司教 Bishop of Hippo Regius

マニ教やドナティスト派 Donatism、ペラギウス派 Pelagianism と論争。

430年、ヴァンダル人によるヒッポ包囲。死去。

キリスト教神学の確立に貢献

『神の国』 *De Civitate Dei* (413–426)

後世に大きな影響を残す。

アダムとイブによる原罪 **Original Sin** が地の国 **the City of Man** と神の国 **the City of God** を作る。

歴史は地上の国（自己愛）と神の国（神への愛）の闘争 **conflict between the City of Man and the City of God**。

二つの国の分離と神の国の勝利。

執筆の動機 **motive** :

異教徒の非難に対するキリスト教の弁護 **defense**。

時代背景 **historical background** :

410年の西ゴートによるローマ占領と略奪 **occupation and sack**。

異教徒のキリスト教批判 **criticism**

内容 **content** :

マルケリヌスの依頼 (1. Pref.)

ローマの衰退とキリスト教徒の関係について :

古代においてもローマは略奪された(2. 3)

異教の神々の無力(2.3)

キリスト教会による抵抗

国家の盛衰は神の摂理(5. 1)

ローマ人の道徳的退廃と弱体化 (5. 12)

ローマの発展は神の国への献身の必要性を示すため(5. 16)

キリスト教とは無関係

歴史と神の摂理 **History and Divine Providence**

アダムとイブの原罪→地上の国と天上の国(12. 28)

地上の国と天上の国の混在と最後の審判による分離(18. 54)

神の国：永遠の命と霊的肉体 (19.17)

聖書による時代区分 :

1. アダムから洪水まで
2. アブラハムまで
3. ダヴィデまで
4. バビロン捕囚まで
5. キリスト降誕まで
6. 現代（世代数では分からない）
7. 最後の審判以降 (22.30)

伝記 **Biographies**

主として聖人伝、俗人ではアインハルトの『カール大帝伝』。

背景に聖遺物崇拜・聖人崇拜の流行。

スルピキウス・セウェルス Sulpicius Severus (360–420 年)

『聖マルティヌス伝』 *Vita Sancti Martini* (397 年?)

フランク人の聖人。メロヴィング時代、よく読まれる。

修辭学的技巧による虚偽と虚栄を肯定。

大部分はフィクション。

マルティヌスとの出会いは本物。

内容：

アミアンにおける一人の貧しい男 (イエス) との出会い。

外套の半分を与える。

夢。

18 歳の時に洗礼。

アインハルト Einhardus (775 年頃–840 年)

ゼーリゲンシュタット Seligenstadt の下級貴族出身。

フルダの修道院で教育を受ける。

アルクィン Alcuin の弟子となる。

カール大帝 Charles the Great の信任を得、助言者 adviser として活躍。

ルードヴィヒ敬虔王 Louis the Pious の私的顧問 private secretary。

830 年、退職 retire。

ルードヴィヒに対する失望と王朝の衰退を危惧。

『カール大帝伝』 *Vita Karoli Magni* (830 年?)

ルードヴィヒ敬虔王の教会的統治に対する反発。

聖人伝の様式には従わず、スエトニウス Suetonius の『ローマ皇帝伝』 *De vita caesarum*、特に「アウグストゥス伝」の様式をまねる。

民族史

トゥールのグレゴリウス Gregory of Tours (538–594 年)

オーヴェルニュ地方 Auvergne のクレルモン Clermont の貴族の出身。

アウストラシア分国 Austrasia のジギベルト Sigibert 王からトゥールの司教に任命される。

ネウストリア分国 Neustria のヒルペリッヒ Chilperich 王の侵入に抵抗。

ヒルデベルト Childebert 王の顧問となる。

『フランク人の歴史』 *Historia Francorum* (591 年?)

中世初期における最も優れた歴史叙述

古典的教養の衰退と歴史叙述の消滅に対する反発

ベダ Beda Venerabilis/ the Venerable Bede (673 年頃–735 年)

ノーサンブリア Northumbria のモンクトン Moncton に生まれる。
680 年頃、ウェアモス Wearmouth のベネディクト会修道院に入る。
ジャロー Jarrow で亡くなる。

『六時代史』 *Chronica sex aetatis mundi*、『年代計算論』 *De temporum ratione*、**聖**
カスバート伝』 *Vita Sancti Cuthberti*、『修道院長史』 *Historia Abbatum* など。

アングロ・サクソン族の改宗（6 世紀）以降の救済史
ブリタニアの地誌や習俗から始まる民族史
年代考証と史料批判
ケルト教会への寛容
救済史観
歴史叙述のモデル
アルフレッド大王 Alfred the Great の命令で古代英語に翻訳

マームズベリのウィリアム William of Malmesbury（1090/95 年頃—1143 年頃）

父はノルマン人、母はアングロ・サクソン人（3. Pref.）。

イギリス南西部に生まれる。

マームズベリのベネディクト会修道院に入る。

終生、司書 librarian。修道院長 Abbot の提供を断る。

図書収集。

ベーダを尊敬。

『イギリス人王言行録』 *Gesta regum Anglorum*、『新時代史』 *Historia Novella*、『イ
ギリス人司教言行録』 *De Gestis Pontificum Anglorum*、『アルドヘルム人』 *De vita Sancti Adelmi*
など。

『イギリス人王言行録』 *Gesta regum Anglorum*（1120-1135 年）

449 年から 1120 年までのイギリス史。

サクソン人・ノルマン人両方を公平に扱う。

12 世紀初頭についての貴重な史料を残す。

第 1 巻：ローマ時代からエグバート Egbert によるイングランド統一(829 年)まで。

第 2 巻：ハロルド Harold 王の死まで（1066 年）のウェセックス史。

第 3 巻：ウィリアム征服王 William the Conquest(1066-1087 年)。

第 4 巻：ウィリアム・ルーフス William Rufus 王(1087-1100 年)。

第 5 巻：1120 年頃まで。第 1 回十字軍や、ハインリヒ 5 世 Henry V とローマ教皇の対立なども
言及。

ヘイスティングスの戦いの記述

アングル人の退廃（宗教への情熱を失う、美食や浮気、庶民への圧政、貴族の貪
欲、飲酒と浪費）→無分別にもウィリアムと戦い敗れる。刺青の習慣。（3. 245）